リレーエッセイ

ハードルを越えて 28

日髙（ひだか） 良二（りょうじ）さん
（霧島市）

1965年、鹿児島市生まれの51歳です。高校3年生の頃に交通事故に遭い、頚椎を損傷。生死をさまよう状態が2～3週間続きました。医師や両親は手術に踏み切るかどうか悩みましたが、かすかに動いた私の指を見て「自然回復の可能性にかける」と判断したそうです。

寝たきりの状態で半年ほど過ごし、首の骨が安定すると辛いリハビリの日々が始まりました。ベッドでの寝起き、座ること、歩くことすべてが思い通りに行かず、病院の屋上へ行って「死」を選ぼうとしたこともありました。しかし、たかだか50～60cmの塀を乗り越えようにも思うようにならず、呆然と雨に打ちひしがれたことを覚えています。

挫折と希望を繰り返しながらの長い入院生活でしたが、家族や医師、看護師の方の支えもあり、2年半でようやく退院。退院後は車の免許を取得し、21歳で印刷会社に就職、以来20年近く働いてきました。妻と出会ったのは39歳の頃。アルバイトとして働いていた彼女は、私を障害者としてではなく、一人の社会人として分け隔てなく接してくれました。結婚後は男の子を授かり、来年は中学1年生になります。

42歳で独立し、デザイン事務所を設立。イニシャルの「R」をとって「アール工房」と名付けました。

バリアフリーの事業は、平成24年にNPO法人eワーカーズ鹿児島を手伝ったのがきっかけです。その後同法人の理事にも就任しました。今年の5月、今後の需要拡大を見込み、同法人からバリアフリー部門だけを分け新規にNPO法人「かごしまバリアフリーツアーセンター」を立ち上げ、理事長に就任しました。

センターでは、誰もが安心して自分らしく外出ができる、皆にやさしい街づくりを目指しています。活動内容は、eワーカーズ鹿児島が調査したバリアフリー情報の発信やそれに基づく個別の旅行相談や案内。ひとり一人の思いに寄り添ったサポートを心がけています。

趣味は釣りとドライブ。車以外の移動手段として杖と車椅子を使い、夜を徹して釣りに勤しんだり、家族と一緒に遠方へのドライブでグルメを満喫するなど、自らアクティブなバリアフリー生活を実践しています。

「旅の感動に段差はない」との思いで制作した、観光情報誌「五感で感じる鹿児島の旅」。日髙さんも自ら現地へ赴き、障害があってもポジティブに楽しめる旅の在り方を発信している。平成26年2月 発行。

提供：NPO法人 eワーカーズ鹿児島

特定非営利活動法人 かごしまバリアフリーツアーセンター
姶良市加治木町新生町187-1　加治木近隣センター101-B
TEL.0995-73-3678　FAX.0995-62-3331　http://kagoshima-barrierfree.com